

# 5. 初めての質問対策

指導医のダイバー先生が、  
質問対策について解説しています



ダイバー先生

## 1. 質疑応答の意義

～質疑応答こそ学会発表の醍醐味～



質疑応答は、「質問を投げかけ、それに答えるという一連のやり取りのことで、発表者が聴衆と双方向のコミュニケーションを図り、研究内容を深く伝えるための重要な場」です。



慣れないうちは質問に対しての不安が強いものです。しかし、「質問される」ということは、「興味をもってもらえている」ということですので、「自分の研究をもっと興味を持ってもらうアピールできるチャンス」と積極的に臨むことで、研究発展のための新たな視点を得られ、学会発表をより有意義なものにすることができます。

# 5. 初めての質問対策

## 2. 質疑応答の実際

～落ち着いて受け答えしましょう～



### (1) 質疑応答の流れ

自分の研究発表が終わったら、質疑応答の時間となります。質問に落ち着いて答えるためには、

「ゆっくり話す」、「質問を自分の言葉で言い表す（『●に関する質問でよろしいでしょうか？』）」などのテクニックも有用です。



### (2) よくある質問内容

聞き手によって興味のポイントは異なりますが、いくつか項目ごとに整理することができます。

導入に関して：『なぜ研究することにしたのか動機を詳しく知りたい』

方法に関して：『その研究方法に興味があるから詳しく知りたい』

結果に関して：『自分の研究と異なる結果であったためもう少し深く結果について聞きたい』

考察に関して：『自分だったらこのデータはこのような解釈もできる』

理解できなかったことに関して：『残念ながら発表内容を十分に理解できなかったため、もっとわかりやすく説明してほしい』

実臨床への応用：『今回の結果を踏まえて、今後実臨床に応用するならどう考えるか？』

# 5. 初めての質問対策

## 3. 事前の準備

～備えあれば憂いなし～



(1) 第三者がみても理解しやすいスライド・

シナリオ作り



自分の発表を十分に理解してもらうことで、聴衆からの的外れな質問を避け、研究発展のための前向きなコメントを得やすくなります。

よりよい議論のために、理解しやすい発表内容が重要です。

(2) 想定質問・回答集の作成

慣れないうちは質問に対して的確に即答するのは難しいものです。事前に想定質問・回答集を作っておくと対応しやすいです。

(3) 本番前に予行を行う

必ず本番の前に、予行を行って、発表と質疑応答の練習をしておきましょう。